

品目別レポート さけ・ます

■品目説明

さけ・ます類には、太平洋さけと呼ばれるシロザケ、カラフトマス、ベニザケ、ギンザケ、マスノサケ、サクラマスと、大西洋サケなどがあるが、日本で漁獲されるサケの大部分はシロザケ（漁獲時期により、トキザケ、あるいは秋サケと呼ばれる）である。

さけ・ますの輸入は冷凍品が多いが、大西洋サケなどの養殖サケは生食用としても消費されるため、冷蔵状態で航空輸送されることも多い。国内需要においては、ノルウェーをはじめとする北欧諸国の大西洋サケおよびチリのギンザケなど、輸入ものの養殖サケ、マスが占める割合が多い。

さけ・ます類は基本的に生鮮・冷凍あるいは塩蔵で切り身に加工され、量販店などで定番魚種として販売されている。消費者の健康志向により、減塩の甘塩仕立ての切り身が多い。

農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」によると19年のさけ・ます類の国内生産量（漁獲、養殖含む）は、前年比31.8%減の8万2,866トンとなった。主に海面漁業で前年比37.0%減の6万200トンとなったことなどによる。

22年の我が国200カイリ水域における我が国漁船によるロシア系さけ・ます漁獲の操業条件を決める日ロ・サケ・マス漁業交渉（日ロ漁業合同委員会第38回会議）では次の割当量で妥結している。

からふとます、べにざけ、ますのすけ 計1,550トン（べにざけ、ぎんざけ、ますのすけについては、3種合わせて1隻あたり1トンとする）
しろざけ 500トン
合計 2,050トン（前年に同じ）

また、ロシア連邦の200カイリ水域における日本国漁船によるロシア系さけ・ますの21年における漁獲量の操業条件については次のとおり。

漁獲割当量： 合計125トン（前年同）
内訳
べにざけ 15トン（前年25トン）
しろざけ 24トン（前年25トン）
からふとます81トン（前年70トン）
ぎんざけ 3トン（前年同）
ますのすけ 2トン（前年同）

なお、15年までは流し網漁法であったが、16年の交渉結果以降、曳き網（ひきあみ）漁法による試験操業が行われることとなった。

内閣官房に設置された農林水産業の輸出力強化ワーキンググループによる「農林水産業の輸出力強化戦略（平成28年5月）」では、種苗放流による輸出余力の安定的な確保と水産エコラベル認証スキームの構築を実現することが肝要としている。秋サケの水揚げを確保する上で必要な人口ふ化放流は、毎年ほぼ同様の放流数で実施されているが、回帰魚の数は減少傾向にあり、輸出に向ける原料が不足することが懸念されている。回帰数を回復させるには、回帰率の向上が不可欠であることから、回帰効果を高める放流手法改良の取組を支援するとしている。

輸出先国・地域によっては、買い手より水産エコラベルの取得が求められるが、種苗放流を行う日本のさけ・ます類についてはGSSI（グローバル・サステナブル・シーフード・イニシアチブ）の承認を受けた日本発の水産エコラベル認証制度（MEL ジャパン）などの認証取得により輸出を促進するとしている。

■輸出概況

東日本大震災の大津波では、岩手県の秋サケの漁獲の8割を占める定置網が甚大な被害を受けた。宮城県のギンザケ海面養殖施設や、青森県から茨城県におよぶサケ、マス孵化場でのシロザケ、内水面漁業も大きな津波被害を受けた。また、原発事故以降、水産物の輸出は多くの国・地域での輸入規制の強化により減少し、とりわけサケ・マス類（生鮮・冷蔵・冷凍）は11～12年の輸出の落ち込みが目立った。その後順調に回復過程をたどったが、北海道でサケ類の遡上が減少し生産面で影響を受けたため、15年の不振に続き、16年の輸出も振るわなかった。また、ロシアの排他的経済水域（200海里）におけるサケ・マス流し網漁業の禁漁の影響と併せ、海面漁業におけるサケ・マス類の16年漁獲が減少した。18年は海面漁業を中心に生産の回復傾向もみられたが、20年の海面漁業は再び減少。20年の輸出額については前年比4.2%減の3,707万ドル、数量は同1.0%増の1万329トンであった。

20年の主要輸出先を数量ベースで見ると、ベトナム向けが首位で前年比11.4%増の5,674トン、次いでタイ向けが同20.8%減の2,230トン、中国が同2.7%減の1,756トンの順となっている。

▼表1：日本のさけ・ます類輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2018年		2019年		2020年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ベトナム	19,650,963	4,618	19,904,217	5,075	19,593,776	5,654	△ 1.6	11.4
タイ	9,966,797	2,487	10,155,285	2,815	8,254,858	2,230	△ 18.7	△ 20.8
中国	11,714,913	2,495	6,386,749	1,804	6,452,687	1,756	1.0	△ 2.7
インドネシア	1,426,217	362	821,238	332	1,694,701	585	106.4	76.2
台湾	648,684	101	780,355	135	652,959	71	△ 16.3	△ 47.4
全世界	44,232,077	10,186	38,684,538	10,229	37,070,306	10,329	△ 4.2	1.0

注：対象はHSコード 0302.11, 0302.13, 0302.14, 0302.19, 0303.11, 0303.12, 0303.13, 0303.14, 0303.19, 0304.41, 0304.42, 0304.52, 0304.81, 0304.82

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●ベトナム

20年のベトナム側の統計では、輸入額が前年比3.8%増の2億9104万ドル、数量が同6.6%増の5万3,365トンとなっている。金額ベース首位はノルウェーでシェア38.1%、2位はチリで同26.9%、3位はオーストラリアで同7.5%となっている。日本は5位で同5.4%であった。

ベトナムが輸入する日本産のサケはサケフレークなどの加工目的で、国内消費はごくわずかといわれている。サケの委託加工は従来主に中国で行われていたが、チャイナリスクの分散を図るために加工地をベトナムにシフトする動きがあり、これが中国向け輸出の減少と対ベトナム輸出のポジション上昇につながっているようだ。ただし、ベトナムにシフトしたものの中国よりも加工賃が高いケースもある。また、委託加工の技術と生産性により、再び中国に回帰する業者もいる中で、今度は米中間の貿易摩擦が中国回帰には逆風となっている。ベトナムでの加工が今後順調に進展するかどうかはまだ不透明である。

ベトナムでは寿司店が多く、日本人経営の寿司店もさることながら、ベトナム人経営による屋台寿司も人気だ。人気の理由は低価格、そして元日本食店で働いていたシェフが独立する機会が多いので独自の仕入れルートを持っているため、価格の割に新鮮でおいしい魚が手に入る。寿司だけでなく、日本食全般的に取り扱っておりそれも人気の理由だ。

すしネタの一番人気はまぐろではなくサーモンで、色合いの鮮やかさと脂の乗りが歓迎され、特に若者層の間ではファッションブルな食材として好まれている。ただし、寿司店を含めた飲食店で使用されるサーモンはほぼ全量がノルウェー産で占められており、日本産は高級店で少量が消費されている。

▼表2：ベトナムのさけ・ます類輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2018年		2019年		2020年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ノルウェー	—	—	122,134,722	15,966	111,009,329	15,418	△ 9.1	△ 3.4
チリ	—	—	62,379,924	9,432	78,501,284	13,334	25.8	41.4
オーストラリア	—	—	6,404,896	786	22,008,742	2,978	243.6	278.9
ロシア	—	—	24,895,916	6,897	20,088,414	5,704	△ 19.3	△ 17.3
日本	—	—	17,340,691	4,746	15,848,558	5,046	△ 8.6	6.3
全世界	—	—	280325464	50081	291,041,217	53,365	3.8	6.6

注：対象はHSコード 0302.11, 0302.13, 0302.14, 0302.19, 0303.11, 0303.12, 0303.13, 0303.14, 0303.19, 0304.41, 0304.42, 0304.52, 0304.81, 0304.82

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

●タイ

20年のタイのさけ・ます類輸入額は前年比8.1%減の3億4,792万ドルとなった。金額ベースでは、輸入先国の首位はノルウェーで、前年比14.9%減の1億5,762万ドルとなった。次いでチリが同24.4%減の7,444万ドルとなった。金額を数量で割った輸入平均単価でみた場合、ノルウェーが最高価格のトン当たり8,263ドル。チリは、同5,223ドル、日本は同4,408ドルだった。

▼表3：タイのさけ・ます類輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2018年		2019年		2020年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ノルウェー	143,566,725	15,465	185,119,282	21,522	157,628,396	19,075	△ 14.9	△ 11.4
チリ	105,971,642	15,886	98,473,964	14,796	74,448,195	14,253	△ 24.4	△ 3.7
米国	43,162,473	9,330	50,343,210	15,784	68,425,014	19,749	35.9	25.1
ロシア	39,884,770	9,750	24,280,638	5,464	23,988,622	6,889	△ 1.2	26.1
オーストラリア	892,278	70	1,234,246	117	9,447,968	1,214	665.5	937.6
日本 (6位)	8,812,520	1,746	11,897,466	2,492	6,930,407	1,572		
全世界	346,578,519	52,891	378,408,948	61,521	347,927,474	64,192	△ 8.1	4.3

注：対象はHSコード 0302.11, 0302.13, 0302.14, 0302.19, 0303.11, 0303.12, 0303.13, 0303.14, 0303.19, 0304.41, 0304.42, 0304.52, 0304.81, 0304.82

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部 農林水産・食品課

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る自体が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。